

[事例・資料]

## 菌株収集検査結果(令和6年度)

微生物課 甘利祐実子 中島向南 平野愛佳理 柳井祐介 大串和弘 島あかり 田中葉子

### 1 はじめに

この事業は医療機関病原体検出情報及び菌株収集実施要領に基づき県内10カ所の細菌検査を実施している医療機関を対象に菌株を収集し、菌の性状及び検出状況を分析することで、感染の早期探知やまん延防止等の感染予防につなげることを目的としている。令和6年度の検査結果について集計したので報告する。

### 2 対象医療機関

佐賀大学医学部附属病院検査部  
 独立行政法人国立病院機構 佐賀病院研究検査科  
 独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院研究検査科  
 独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター臨床検査科  
 地方独立行政法人 佐賀県医療センター 好生館検査部  
 独立行政法人地域医療機能推進機構 佐賀中部病院検査室  
 唐津赤十字病院検査技術課  
 伊万里有田共立病院検査科  
 唐津東松浦医師会医療センター臨床検査部  
 公益財団法人 佐賀県健康づくり財団臨床検査課

### 3 収集対象菌株

#### (1) A群溶血性レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*)

A群が確定された菌株。

##### <収集目的>

- ・詳細な血清型別検査(T血清型)を行い、平常時の菌型を把握することにより、流行の未然防止に寄与する。
- ・劇症型A群溶血性レンサ球菌感染症の発症機序の解明、流行の未然探知に寄与する。
- ・A群溶血性レンサ球菌レファレンスセンターへの菌株の提供。

#### (2) サルモネラ属菌

サルモネラが生化学的性状等で同定され、O群血清型が確定された菌株。

##### <収集目的>

- ・詳細な血清型別を行い、平常時の菌型を把握することにより、流行の未然防止に寄与する。
- ・diffuse outbreak(拡散した集団発生)を早期に探知する。

#### (3) 下痢原性大腸菌

大腸菌が生化学的性状等で同定され、単独血清型が確定された菌株。

※O1 血清型については、収集を行わない。

##### <収集目的>

- ・詳細な血清型別を行い、平常時の菌型を把握することにより、流行の未然防止に寄与する。
- ・一般の細菌検査室では実施困難な病原性因子の検出。

## [事例・資料]

## 4 菌株収集件数

令和6年度に収集した菌株は、A群溶血性レンサ球菌18件、サルモネラ属菌75件、下痢原性大腸菌163件であった(表1)。

表1 月別菌株収集受付件数

受付月	菌株件数		
	A群溶血性レンサ球菌	サルモネラ属菌	下痢原性大腸菌
R6.4	2	2	3
5	2	3	13
6	2	2	14
7	0	8	28
8	1	7	23
9	2	15	10
10	0	25	23
11	2	4	16
12	1	2	12
R7.1	2	3	10
2	2	2	6
3	2	2	5
計	18	75	163

## 5 検査

(1) A群溶血性レンサ球菌(*Streptococcus pyogenes*)

免疫血清凝集法によるT型別検査を実施した。

## (2) サルモネラ属菌

免疫血清凝集法によるO型別検査とH型別検査による血清型別分類を実施した。

## (3) 下痢原性大腸菌

病原因子(VT1, VT2, LT, ST, invE, eae, aggR, afaD, astA)の検索、免疫血清凝集法によるO型別検査とH型別検査を実施した。また、免疫血清凝集法で判定不能のものは E.coli O-genotypingPCR を行った。

下痢原性大腸菌の分類 (病原性微生物検出情報(IASR)2012年1月号より)

	分類	発症機序	主な病原因子	定義
EC mix	腸管出血性/Vero毒素産生性 (EHEC/VTEC)	毒素	VT1, VT2	Vero毒素 (VT) 産生性あるいはVT遺伝子が確認されたもの (保菌者からの検出を含む)
	腸管毒素原性 (ETEC)	毒素	LT, ST	易熱性エンテロトキシン (LT)、耐熱性エンテロトキシン (ST)、あるいはその両者の産生性あるいは毒素
	腸管侵入性 (EIEC)	侵入性	invE, ipaH	組織侵入プラスミドを保有していること、あるいは組織侵入遺伝子が確認されたもの
EP all	腸管病原性 (EPEC)	細胞局在付着性	eae, bfpA, EAF	培養細胞への局在付着性、または、それに関連する遺伝子が確認されたもの
	腸管凝集付着性 (EAggEC)	細胞凝集付着性	aggR, CVD432	培養細胞への凝集付着性、または、それに関連する遺伝子が確認されたもの
	他の下痢原性	不明	afa, astA, CDT, cnf	上記以外で胃腸炎の原因菌と考えられ、生化学性状が一致したものが、多数の患者から検出された場合

EHEC : Enterohemorrhagic E. coli、VTEC : Verotoxin-producing E. coli、ETEC : Enterotoxigenic E. coli、EIEC : Enteroinvasive E. coli

EPEC : Enteropathogenic E. coli、EAggEC : Enteroggregative E. coli

## [事例・資料]

## 6 結果と考察

## (1) A群溶血性レンサ球菌

収集したA群溶血性レンサ球菌のうち、T 血清型は、1 型が7件と最も多く、次に B3264 型が 6 件であった(表 2)。

表 2 A群溶血レンサ球菌 検出件数

T 型別	検出件数
1 型	7
4 型	1
11 型	2
12 型	1
25 型	1
B3264 型	6
計	18

## (2) サルモネラ属菌

収集したサルモネラ属菌は 75 件で、9 月および 10 月に増加がみられた(表 1)。

検出菌種は *Salmonella* Thompson の検出が 36 件と最も多かった(表 3)。

なお、過去 2 年間の菌別検出数は、表 4 および表 5 のとおりである。

10月、11月に *Salmonella* Stanley の検出数が増加した為、PFGE を実施したが特に関連性は認められなかった。

表 3 令和 6 年度サルモネラ属菌種別検出数

検出菌種 (血清型)	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	検出 件数
<i>Salmonella</i> Thompson (7)	1	2	1	5	4	7	12	1	1		1	1	36
<i>Salmonella</i> Stanley (4)	1					1	4	2					8
<i>Salmonella</i> Infantis (7)						1	5			1			7
<i>Salmonella</i> Miyazaki (9)		1	1	1		2	2						7
<i>Salmonella</i> Bareilly (7)						1		1					2
<i>Salmonella</i> Haifa (4)							2						2
<i>Salmonella</i> Schwarzenbrund (4)					1						1		2
<i>Salmonella</i> Typhimurium (4)					1						1		2
<i>Salmonella</i> Agona (4)										1			1
<i>Salmonella</i> Braenderup (7)					1								1
<i>Salmonella</i> Meleagridis (3, 10)						1							1
<i>Salmonella</i> Minnesota (21)													1
<i>Salmonella</i> Saintpaul (4)										1			1
<i>Salmonella</i> Virchow (7)										1			1
<i>Salmonella</i> enterica subsp				1		2							3
検査件数	2	3	2	6	7	13	25	4	2	3	2	2	75

表4 令和4年度サルモネラ属菌別検出数 上位7種

検出菌種 (血清型)	検出件数
<i>Salmonella</i> Infantis (7)	13
<i>Salmonella</i> Thompson (7)	11
<i>Salmonella</i> Miyazaki (9)	8
<i>Salmonella</i> Bardo (8)	6
<i>Salmonella</i> Enteritidis (9)	4
<i>Salmonella</i> Schwarzenbrund (4)	4
<i>Salmonella</i> Typhimurium (4)	4

表5 令和5年度サルモネラ属菌別検出数 上位4種

検出菌種 (血清型)	検出件数
<i>Salmonella</i> Thompson (7)	17
<i>Salmonella</i> Schwarzenbrund (4)	5
<i>Salmonella</i> Typhimurium (4)	4
<i>Salmonella</i> Stanley (4)	3

## [事例・資料]

## (3) 下痢原性大腸菌

収集した下痢原性大腸菌は 163 件で、7 月、8 月および 10 月に増加がみられた(表 1)。

検出した O 血清型と病原因子検出数を表 6 に示した。病原因子は eae 因子 8 件、afaD 因子 7 件、astA 因子 7 件の順に多かった。

O 血清型別検査で検出件数が多かったのは、O25 39 件、O18 32 件、O6 17 件であった。

また、O157 で収集した 2 株中 1 株で VT 因子と eae 因子を検出した。

表 6 O 群血清型別病原因子検出数

O 群 病原因子	EHEC	ETEC	EIEC	EPEC	EAggEC	その他の 下痢原性大腸菌		O 型別 検出数
	VT	LT,ST	invE	eae	aggR	afaD	astA	
1								3
6								17
8								7
15								16
※Og16						1		1
18								32
20				1			1	6
25						3	1	39
28ac								1
44								2
55				1	2			4
78								1
86a					1	3	1	10
91								2
※Og110								1
114				1				1
125								1
126					2		2	3
127a				1				1
145				2			1	2
146								1
153							1	3
157	1			2				2
159								1
161								4
166								2
総計	1	0	0	8	5	7	7	163

※血清型は PCR 法により判定。(免疫血清型別試験と区別するため Og と標記)